

奄美諸島の『高い島』と『低い島』

小林, 茂
九州大学教養部

<https://doi.org/10.15017/2235345>

出版情報 : 九州人類学会報. 11/12, pp.39-40, 1984-06-01. Kyushu Anthropological Association
バージョン :
権利関係 :

奄美諸島の『高い島』と『低い島』

小林 茂

沖縄や奄美の島じまの環境に関して、それらを大きく、「高い島」と「低い島」に区分して考えようとする視点がある。一方の「高い島」は、主として山地によって構成され、高度が大きく、複雑な海岸線をもつ。他方の「低い島」は、更新統隆起サンゴ礁ともいべき石灰岩台地によっておおわれ、低平でひらけた景観をもつ。海岸線も「高い島」とはちがひ、単純となる。このような区分は、人びとの伝統的生業や生活を考える場合にもすくなからぬ意義をもつものと思われる。本発表は、こうした観点をもとに、奄美諸島を例にして、農耕の様式、土地利用、人口密度、森林分布、さらに生活用水の取得について検討し、両者の環境利用に大きな差のあったことを示そうとするものである。

1. 「低い島」のイネ栽培

徳之島南部・沖永良部島での調査および近世・明治初期の古記録の検討から、石灰岩台地上でのイネ栽培は、いくつか特色をもつことがあきらかとなっている（小林、1982参照）。サンゴ礁に由来する石灰岩の透水性の高さのため、そこでは一般に表流水が不足し、天水田が多くなる。したがって、イネ栽培に際しては、水田用水の確保をめぐる多くの労力が必要であった。なかでも、水田からの漏水（これも石灰岩の透水性の高さによる）防止を目的とする作業（「踏耕」）は、長期間を要し、ウラ作が不可能になるほどであった。

しかし、これらの作業にもかかわらず、台地上でのイネ栽培は降水に左右されるところが大きく、しばしば干ばつにみまわれていた。この点、「低い島」でのイネ栽培は、多くの努力を要する一方で、不安定なものであったと言ってよい。

2. 近世・明治期の耕地分布

以上でえられた展望をもとに、古記録にみえる水田・畑地の分布を検討してみると、「高い島」（奄美大島）にくらべて、「低い島」（喜界島・沖永良部島など）では、耕地における畑地の割合が一般に高かったことが知られる。また、島の面積に対する耕地面積の比率も、「低い島」ではいちじるしく高い。これは、畑地としてならば、石灰岩台地上がひろく開発できたことを示すと思われる。平坦なそれは、水田適地は多くないにせよ、広大な畑作適地を提供したと考えてよい。

他方、「高い島」の場合、耕地率がひくいのはその急峻な地形が関与していたと思われる。そうした場所では、一般に耕地の開発が困難であったと考えられるわけである。また、耕地における水田の比率が高いのは、かぎられた耕作適地である谷間の平坦地（沖積地）が、それに適した水文環境をもつためと推測される。実際そこでは、排水困難な湿田さえ少なくなかったのである。

3. 人口密度

さらに古記録にみえる人口からその密度を算出してみると、「低い島」で圧倒的に高かったことが確認される。これは、「低い島」では一般に集約的土地利用の密度が高く、したがって人口支持力も大き

かったことを示すと言えよう。

4. 森林分布

以上に対応して、「低い島」では森林がすくなかった。とくに喜界島や与論島では、明治初期までにほとんど森林がなくなるという状態にいたり、燃料としてウシやウマの糞さえ利用していた。また材木などは、大島や沖縄本島北部（いずれも「高い島」）からの移入にたよっていた。

他方「高い島」では主として山地にのこされた森林は、明治にいたっても豊富で、木材も取引の対象になるものではなかった。

5. 生活用水の取得

表流水のすくない「低い島」では、一般に水田用水の確保にかぎらず、生活用水の取得にも大きな努力を必要としていた。石灰岩台地の、とくに地下水位のひくいところでは、地低深くの基盤岩上を流れる水を利用するほか、天水の利用もさかんであった。また水田にたたえられた水を、生活用水として使用することもあった。

以上のように、「高い島」と「低い島」の伝統的な環境利用には大きな差がみとめられる。このことは、奄美諸島にかぎらず、南西諸島全域の伝統的文化を考えるうえでも重要な示唆を与えるものと思われる。

<付 記>

以上の発表の主要部分は、小林・中村・森脇・中井（1984）として、『人類科学』（九学会連合）誌上に掲載が予定されている。詳細はこれを参照していただきたい。なお当日は参加者の方がたから有益なコメントをいただいた。記して感謝いたします。

文 献（本報告ののちに発表したものをふくめ、関連するものを示す）

小林 茂（1982）「奄美諸島の伝統的イネ栽培と『踏耕』」『人類科学』35号、pp 69-104.

（1983）「サンゴ礁の島のイネ栽培」『月刊みんぱく』（民族学振興会）7巻12号、pp. 15-17 .

（1984）「南西諸島の『低い島』とイネ栽培」『民博通信』23号、pp 77-90 .

小林茂・中村和郎・森脇広・中井達郎（1984）

「奄美諸島の石灰岩台地と伝統的環境利用」『人類科学』36号、pp 29-86.